

工房 G 第13回作品展

三浦の自然素材で作った三浦焼の魅力



日本の陶芸は、土を素材として形を作り、高温で焼き上げることにより器などの作品を生みだします。地域では特色ある焼き物が発展し、それぞれ産地の文化や技術、自然環境を反映した多様な技法や様式が生まれ、実用的な生活用品から高度な芸術作品まで幅広く作られています。日本各地には、それぞれ異なる土、釉産地があり、そこで作られた作品は全く異なる顔を持ちます。

角野竹博さんが考案した三浦焼は、三浦市内で採った土をはじめ、うわぐすりには木やマグロの骨、ワカメ、ダイコンなども素材として使います。土とうわぐすりの素朴な風合いが織りなす色や仕上がり感が三浦焼の魅力です。作品の出来上がりは、色やつやが変わることもあり、窯から出す時が楽しみだそうです。

工房Gを主宰するのは、三浦市の元中学校美術教師だった角野竹博さんです。今年は工房G作品展も13回目を迎えました。角野竹博さんは、「よく続いてきました。多くの方に見てもらい励みにもなりました。メンバーの作品も美しい色使いや独創的な形があり作品展を重ねるたびに上達しています。個性溢れる表現の妙をお楽しみください」と、述べています。

工房Gには、小学生から高齢者までやってきて自分の好きな作品を作ります。「メンバーが好きなことを選択してやる」のが方針です。それぞれが陶芸や彫刻など独自の作品にとりくみ仲間の絆も自然と深まります。温かい角野さんの人柄も関係するのでしょうか、メンバーはみんな温厚で製作中も会話あり笑顔ありです。

工房G第13回作品展は10月20日から27日まで。時間は10時から18時（初日は13時から、最終日は15時まで）。会場には角野さんが考案した三浦焼や増富焼をはじめ、注いだ瞬間に味がまろやかになる「特製三浦焼」の出品。メンバーが制作した陶芸や彫刻、賛助出品の木工も展示。コーヒーカップや茶わん、皿などチャリティー販売し遺児育英資金として寄付します。入場無料。ご来場を歓迎いたします。



写真は「工房 G 第12回作品展」